

Nittaku[®]

2026 Spring New Rubber

BLASTAC

BLASTACK とは

思い描く軌道を実現する安定力×攻撃力で
頂点への一步を踏み出せ！

安定性があり、自分の思った通りの軌道を描いてくれる。

軟らかいのに反発力も申し分ない。

ブラスタックはいい意味で素直。理由のわからないミスが起きないから、自分の課題が明確化しやすい。技術の精度を上げることに注力できるため、上達への近道にもなる。

「もっともっと強くなりたい！全国大会に出たい！全国で1勝したい！」
と思っている人の後押しをしてくれる、味方となるラバーです。

ブラスタック

NR-8123 ￥5,720 (税抜 ￥5,200)

裏ソフト：AC アクティブチャージ スピード：15.00 スピン：12.00 スポンジ硬度：35.0
スポンジ厚さ：中、厚、特厚 カラー：レッド (20)・ブラック (71) MADE IN JAPAN



Benefits

「思い描く軌道」は勝利への近道

Benefit 1

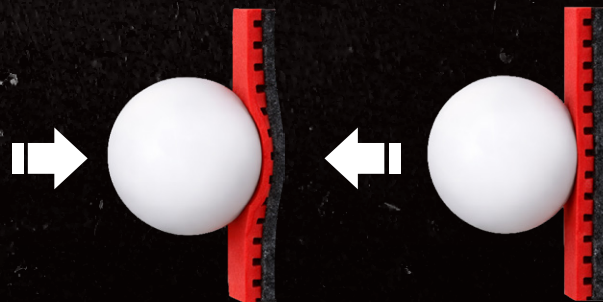
ブラスタックは思い通りの軌道を描いてくれるため、理由のわからないミスに左右されることなく、課題が明確化しやすいです。そのため、ストレスなく技術の精度を上げるのに集中することができます。

Benefit 2

瞬時の判断が求められるラリーのなかで、いかに自身の放つボールが思い通りの軌道を描いてくれるかが、勝利を目指すうえで重要なカギとなります。ブラスタックは、その緻密なボールタッチに応えてくれるため、緊迫した場面でも自信を持ってプレーすることができます。

■ カーボンブラックスポンジとは

硬度は 35.0 度と比較的軟らかく、球持ちの良さに優れる。
硬度を低くするうえで、デメリットとなりうる反発力の軽減を
「カーボンブラック」の補強効果で回避することに成功。
補強効果で弾力性が高くなり、インパクト後の戻りが
早くなることで、球持ち感がありながら反発力も維持。



インパクトのイメージ

Design and Name

PRODUCT DESIGN



視覚的に一目で印象に残り記憶されやすいことを最優先し、ゼブラ柄を採用。

製品アイコンとなることを目指しエッジの効いた力強さのあるデザインを意識。

カラーリングは、ブラスタックのネーミングの由来にもある「ブラックスポンジ」に合わせ「黒」を基調に作成。

【ゼブラ=ブラック】→文字の中にも「ブラック」の要素を忍ばせています。



NAME CONCEPT

Black

(スポンジ)



Stability

(安定性)



Attack

(攻撃)

Product Story

上級者に限りなく近い中級者に向けた“優等生”ラバー



商品開発部 本部長 松井潤一

今回ターゲットとしたのは「中級者」です。中級者といっても幅広いですが、そのなかでも全国大会に出るか出ないかのレベルで、上級者に限りなく近い中級者をイメージしています。その層は、ひと通りの技術は習得していて、その技術の精度を高める段階にあり、自身の得手不得手や課題を認識できていると考えます。

そのなかで、打球フォームが原因ではない「理由のわからないミス」というのが起きることがあると思います。その原因は気候や環境もありますが、ラバーの性能が高すぎて扱いきれていないケースも少なくありません。ハイエンドラバーは、ときには一発で抜くようないいボールが出るかもしれませんが、ボールコントロールが上手くいかず、結果的に理由のわからないミスが多発してしまいます。

ブラスタックは、球持ち感が良いシートに硬度 35.0 度と比較的軟らかいスポンジを組み合わせているので、安定感に優れます。いい意味で素直で「思い通りの軌道を描く」のが特長です。そのため、ミスの原因も明確化しやすく、技術の精度を上げることに注力することができます。ただ、軟らかめのスポンジというと、反発力が弱くなるのではないかと気にされる方も多いと思います。それを回避すべく、補強効果をもたらす「カーボンブラック」をスポンジに初めて搭載しました。スポンジを補強し弾力性を高めることで、ボールが接触してからの戻りを早くするという効果があります。そのため、35.0 度には十分な反発力を感じていただけたと思います。

技術の精度を上げたい中級者だけでなく、凡ミスが多いことに悩まれている方、フォームを見直したいと考えている方などにも幅広くご使用いただけるラバーです。ぜひ一度、この性能を体感してください。

自分の力を最大限に出せることが一番。それが叶えられるラバー

自分が思っているよりも飛んだり回転がかかったりするラバーは、良いボールが出て気持ちがいいので使いたくなる心情もわかりますが、私はあまりオススメしません。練習でどんなに良いボールが出せても、本番の緊張した場面では力が入ってしまって、想像以上に飛びすぎてしまうことがあるからです。

特に中級者は、“どれくらいの出力であれば、どれくらいのボールになるのか”といった自分自身のコントロールを覚えていくことが重要です。そのラバーを使って自分の力を最大限に出せることが一番の理想になります。ブラスタックは自分の思った通りの出力で、思った通りの軌道を出すことができるので、とても適したラバーだと思います。

軟らかいけどそれを感じさせない！飛距離も兼ね備えたラバー

スポンジが軟らかいラバーはコントロールがしやすい反面、引っ張れずに落ちてしまったり、浅く入ってしまったりするイメージがありましたが、ブラスタックは球持ちが良くて本当に落ちないんです。相手コートの中深くに行きますし、特にパワーが必要な後陣でも低いところから引っ張って打つことができるので、驚きました。

また、飛びすぎるラバーは良くないと先述しましたが、飛ばなさすぎるラバーも無理に力が入ってしまう原因になります。ブラスタックはその心配もなく、飛び具合もとても良いので、中級者だけでなく上級者になっても使い続けられるラバーだと感じました。「ここが使いにくいな」というのが本当になかったです。



石川 佳純 (全農)

Review2

■ 掴みがあって軌道が安定するから、カウンターがやりやすい

現代卓球において重要な技術であるカウンターで大事なのは、ボールの軌道や掴みです。

ボールの軌道は、浅くではなく深く入ることが大切になりますが、ボールの掴みが良いとスピードが物足りなく感じる場合があります。しかし、このブラスタックは、**想像以上にスピードが出るので、カウンターがとてもやりやすい**と感じました。ボールを掴んでいるのがよくわかるので、しっかり振り切ることもできます。

また、私は現役時代に硬めのラバーを使っていたので、物足りなさを感じるのではないかと思いましたが、スピードと球持ち感があり、驚きました！

■ クセのないブラスタックで自己分析し、技を磨こう！

上級者に近づくにつれて「もっと回転をかけたい」「もっとパワーを出したい」と自身の特徴をさらに活かすことができるラバーを選定していくようになります。一方で、中級者はまず全面的に技術のコントロールをしていく段階にあります。この段階で、極端な特徴があるラバーを使っていると、そのスピードや回転が自分の技によるものなのか、ラバーの特性によるものなのかがわかりづらくなってしまいます。得点やミスの原因を発見して分析ができないと、どこをどう伸ばしていくのか、どう改善していくのかを見出すことができません。ブラスタックは、**特別なクセもなく軌道が安定している**ので、**自己分析もしやすい**です。この段階で自分の特徴を磨いて、さらにその上のファスタークやハモンド Z2、ジェネクションにつなげていくと良いと思います。



平野 早矢香 (ミキハウス)

“自分の型”を覚えるのに適したバランス系

ほかの硬度 35.0 度のラバーを試打した時は、軟らかいのでミートが合うと思ったのですが、ブラスタックは後陣で引き合いをしてもガンガンドライブができて、まったく落ちませんでした。良い意味で主張がなく、ドライブ、強打、カウンター、引き合いなど、何をやってもこなせます。

トップ選手向けの用具は、ラケットの面の出し方や当て方、当てる時の強さなどを繊細にコントロールできないと使いこなせません。ブラスタックは、その必要がなく純粋にボールを打っている感じがします。また、中級者の段階で用具の力だけで飛ばしては、上達にはつながりません。その点、ブラスタックは球持ち感と反発力のバランスが良いので、“自分の型”を覚えるのに適していると思います。

相棒によって顔を変えられるラバー

今回、7枚（ネヴェスウッド）、アウター（暁炎）、インナー（蒼天）の3種類のラケットで打ち比べをしました。どのラケットとも相性がよく、それぞれの個性を活かせると感じました。

ラケットで飛ばしたいなら7枚やアウターが合いますね。思い描いたところにまっすぐ行ってくれます。より当たっている感覚を大事にするのであれば、7枚が良いと思います。インナーはしっかりと引っかかって弧線を描いてくれるので、ドライブがやりやすいです。

ラケットが変わるとラバーの性能も変わったように感じるのは、それだけ主張が少なく何にでも合わせられる証拠。相棒によって顔を変えられるラバーだと感じました。



森蘭 政崇 (BOBSON)

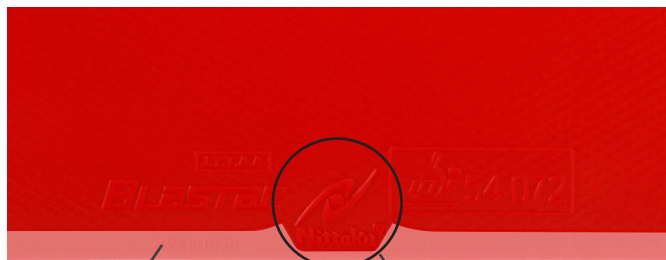
Review4

グリップ力を高めるこだわりのモールドデザイン

サーブを出す時、レシーブを構える時、意外と気にするのが親指や人差し指の引っ掛かりによるグリップの安定感です。ここが滑って指が動いてしまうと、どうしても不安になってしまいます。それが以前から気になっていたため、開発の際にモールドのデザインについて提案をしました。

これまでは、モールドの中央には製品名を配置することが多かったのですが、シンボルマークを中央に置くことで、フォアハンドをする際の親指が引っかかりやすいようにしています。また、バック面に貼った場合は、ひとさし指が土台部分にフィットするようになっています。今回、初めての採用となりましたが、画期的なデザインになっていると思います。

モールドにもこだわったブラスタック、ぜひ一度お試しください！



ひとさし指がフィットしやすい土台

モールド中央にシンボルマークを配置



▲フォアハンド



▲バックハンド



さあ、ここから

黒の反撃

2026.4.21